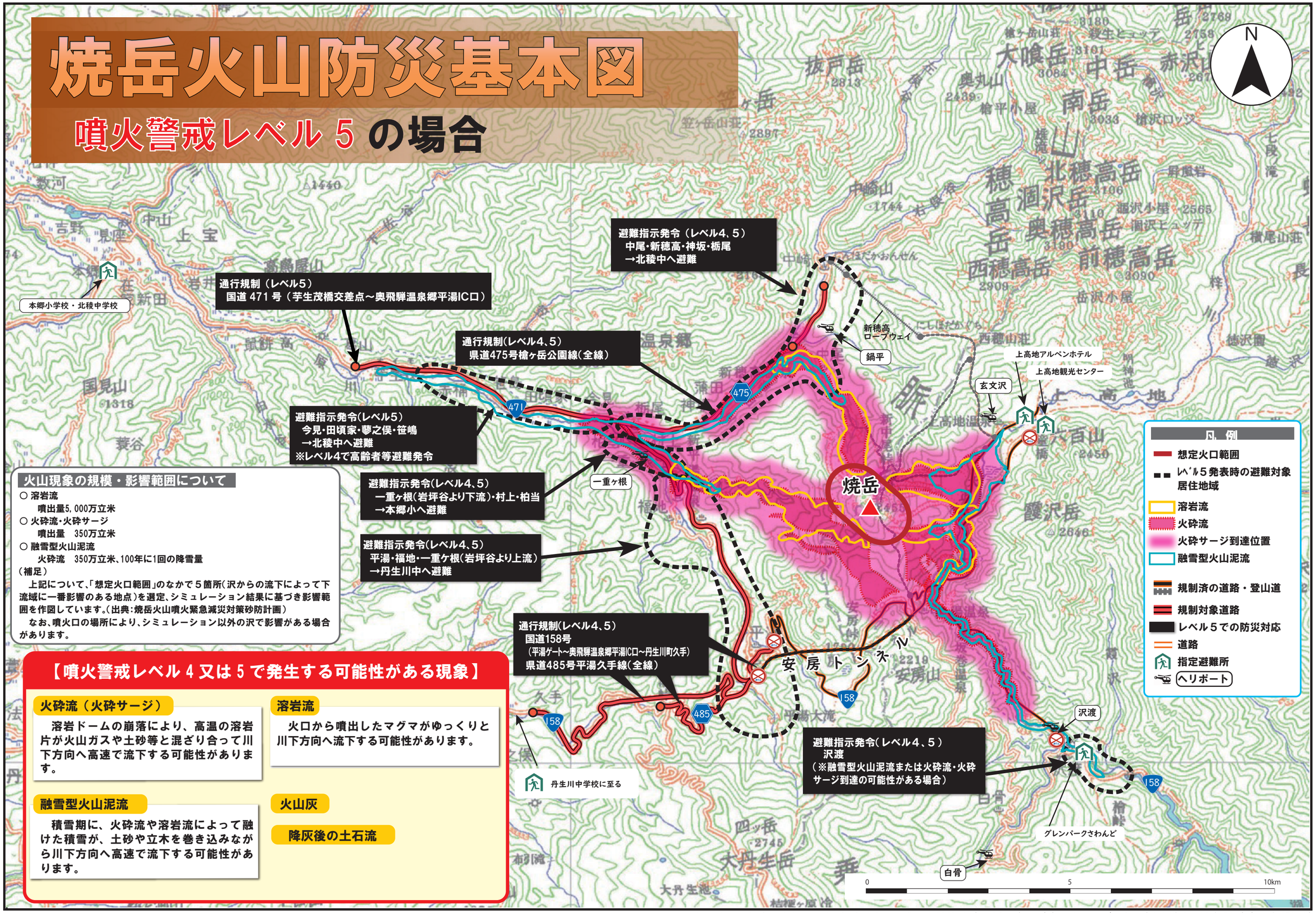
焼岳火山防災基本図

噴火警戒レベル 5 の場合



火山現象の規模・影響範囲について

○ 溶岩流
　噴出量5,000万立米
○ 火砕流・火砕サージ
　噴出量　350万立米
○ 融雪型火山泥流
　火砕流　350万立米、100年に1回の降雪量

（補足）
上記について、「想定火口範囲」のなかで５箇所（沢からの流下によって下流域に一番影響のある地点）を選定、シミュレーション結果に基づき影響範囲を作図しています。（出典：焼岳火山噴火緊急減災対策砂防計画）
なお、噴火口の場所により、シミュレーション以外の沢で影響がある場合があります。

【噴火警戒レベル 4 又は 5 で発生する可能性がある現象】

火砕流（火砕サージ）
溶岩ドームの崩落により、高温の溶岩片が火山ガスや土砂等と混ざり合って川下方向へ高速で流下する可能性があります。

溶岩流
火口から噴出したマグマがゆっくりと川下方向へ流下する可能性があります。

融雪型火山泥流
積雪期に、火砕流や溶岩流によって融けた積雪が、土砂や立木を巻き込みながら川下方向へ高速で流下する可能性があります。

火山灰

降灰後の土石流

この地図は、国土地理院の承認を得て、同院発行の数値地図 200000（地図画像）を複製したものである。（承認番号　平成 26 情複、第 274 号）